

平成21年度小中連携研修会（郡山地区）まとめ

鹿児島市立南方小学校

1 郡山地域の研究主題

郡山地域の子ども一人一人の「生きる力」を育むために、小・中学校の連携は、どのようにあればよいか。
 ～「確かな学力の育成」及び「生徒指導（学級経営）の充実」を目指して～

2 研究の視点

(1) 確かな学力の育成

- 基礎・基本の習得を中心とした指導方法等の連携の在り方等
- 平成20年度共通実践事項
 - ・ 手引きやしおりを活用して、家庭学習を充実させよう

(2) 生徒指導（学級経営）の充実

- 発達段階に応じた計画的・組織的な連携の在り方等
- 平成20年度共通実践事項
 - ・ 生活リズムを整えよう

3 日程（平成21年6月9日）

1	受付 (係打ち合わせ)	14:00～14:20 (20)	係打ち合わせ (図書室)
2	授業参観	14:20～15:05 (45)	5校時授業を自由参観
3	移動・休息	15:05～15:25 (20)	移動・休息 (湯茶は、スカイホールに準備)
4	全 体 会	(1) グループ 討議	15:25～16:15 (50) [会場：スカイホール] 視点1 「確かな学力の育成」 視点2 「生徒指導(学級経営)の充実」
	(2) 全体協議	16:15～16:35 (20)	[会場：スカイホール] ・グループ討議の内容報告 ・質疑応答及び意見交換 ・外国語活動についての情報交換 ・平成21年度共通実践事項の提案
5	指導助言	16:35～16:45 (10)	郡山中学校 神野 重徳 校長
6	閉会のあいさつ	16:45～16:50 (5)	南方小学校 中原美和子 校長

4 全体会・グループ討議の係

全体会・グループ討議	進 行	司会者	記録者	指導助言者
全体会	上園 明美教諭 (南方小)	河野 克純教諭 (郡山中)	林 和代教諭 (南方小)	神野 重徳校長 (郡山中)
1 グループ	/	塩屋みゆき教諭 (花尾小)	濱渦 佳代教諭 (南方小)	鶴田 照男校長 (郡山小)
2 グループ		上鶴 清美教諭 (郡山小)	溝上 貴美教諭 (郡山小)	東口 信 校長 (花尾小)
3 グループ		青野 浩哉教諭 (南方小)	梶田 朋子教諭 (郡山中)	中原 美和子校長 (南方小)
4 グループ		川畑賢一郎教諭 (南方小)	笠井 和子教諭 (南方小)	神野 重徳校長 (郡山中)

5 全体会の会順

(1) 開会の言葉 (進行)

(2) 係の紹介 (進行)

(3) グループ討議 (各グループ司会者)

ア 研究の視点1・2についての各学校の取組状況

イ 意見交換

ウ 指導助言

(4) 全体協議 (全体会司会者)

ア 各グループでの協議内容報告 (各グループ記録者)

イ 質疑応答及び意見交換

ウ 外国語活動についての情報交換

エ 平成21年度共通実践事項の提案

(5) 指導助言

郡山中学校

神野 重徳校長

(6) 閉会のあいさつ

南方小学校

中原美和子校長

(7) 閉会のことば (進行)

6 全体会のまとめ

(1) グループ討議の記録

平成21年 6月9日 火曜日	1グループ
司会者(塩屋みゆき)花尾小	記録者(濱渦佳代)南方小
<p>1 視点1「確かな学力の育成」について各学校の取組</p> <p>郡山小</p> <ul style="list-style-type: none">各学年に応じた「家庭学習の手引き」を作成した。7月のPTAで詳しく説明する予定。TT, 少人数指導, 専科による専門的な指導法の研究, 充実を図ることができた。 <p>花尾小</p> <ul style="list-style-type: none">PTA総会で保護者へ説明し, 家庭との連携を図った。一学校一改革「読書冊数を増やして本好きな子へ」を掲げ, 校内では集中して取り組んでいるが, 家庭での読書が習慣化されるまでには至っていない。 <p>郡山中</p> <ul style="list-style-type: none">「学校生活のしおり」の見直しを行い全生徒に配布してガイダンスを行った。見届けを徹底して行うようにしている。追加課題, 放課後の個人指導, 小テストなど。 <p>南方小</p> <ul style="list-style-type: none">「家庭学習の手引き」の中に「帰宅後のマイスケジュール」を加え, 計画的に家庭学習が行えるようにした。「家庭学習がんばりカード」を10月と2月に配布し, 家庭学習の状況と「家庭学習の手引き」の活用・実践の様子を調査した。 <p>○ どの学校も「学習の手引き」を作成し, 家庭との連携を図りながら, 家庭学習を充実させようと頑張っている。</p> <p>2 視点2「生活リズムを整えよう」について各学校の取組</p> <p>郡山小</p> <ul style="list-style-type: none">「早寝・早起き・朝ご飯」について各家庭へアンケートを実施し, 子どもや保護者への意識の高揚を図った。「くん・さん」づけの意識が薄いのが課題だが, 保育園からの習慣があり, 小学校で指導しても, 難しく感じる。 <p>花尾小</p> <ul style="list-style-type: none">生活リズム, テレビ視聴について, PTA総会や家庭教育学級場で保護者へ説明やお願いをした。生活目標, 保健目標に生活リズムの内容を盛り込んで, 強調月間を設定した。	

郡山中

- ・ 学年部会，生徒指導委員会の連携により，情報交換を行い，生徒指導上の重点事項を設定し，学校全体で取り組むことができた。
- ・ 不登校などで悩んでいる保護者を対象にした保護者交流会を実施している。
- ・ 本年度は不登校児童が大変少ない。小中連携研修会などで小中連携が深まっていると考えられる。

南方小

- ・ 6月・2月に「生活リズムに関する実態調査」を行い，実態を把握した
- ・ 「生活リズムがんばりカード」を2月に配布し，テレビ視聴についての目標を決め，実践の様子やテレビ視聴の実態を調べた。
- ・ 各学級で生活リズムを整えるテーマを掲げ，学校全体の意識が高まり，改善が見られつつある。

3 意見交換

- 学習の基本的しつけがうまくいなくて悩んでいる。机上整理，鉛筆にぎりなど，低学年でしっかり身につけておきたい。

鉛筆にぎりなどは幼稚園，保育園で癖になっていると，指導してもなかなか直らない。幼・保との連携も必要だ。また，週報で知らせたり，呼びかけたり，継続的な指導が必要だ。

- 保護者と連携を密にすることが大切だと思うが，なかなかうまくいかない。

⇒ 気がかりなことがあったらそのままにしておかない。という気持が大切。

密にしないといけない家庭は少ないので，毎日でも連絡をとり，信頼関係を築いていくことが必要である。

- 生活リズムの中でどの学校も課題になっているのが，テレビ視聴だが，大人の意識の問題が大きな課題である。「食事時はテレビを見ない」など，なにかのきっかけで親がスイッチを切ることが大切だと思う。

⇒ ビデオの録画などを使って，親も計画的に視聴する方法もある。平日は限られた時間を有効に使い，ビデオ録画を使って，土・日に視聴するなど計画的な視聴を進めるのも一つの方法である。



司会者 (上 鶴 清 美) 郡山小	記録者 (溝 上 貴 美) 郡山小
1 視点1「確かな学力の育成」について各学校の取組	
(課題)	
郡山小・・・ 家庭学習の手引きについての保護者への説明が不十分である。	
花尾小・・・ 個人差が大きく、音読の力が不足している。	
郡山中・・・ 家庭学習の習慣化を図る必要がある。	
南方小・・・ 保護者の見届けと、授業との関連を考慮した家庭学習の充実を図る必要がある。	
2 視点2「生活リズムを整えよう」について各学校の取組	
(課題)	
郡山小・・・ 言葉遣いの中で、君・さんづけの意識付けが難しい。	
花尾小・・・ ゲーム・テレビの時間が長く、夜更かしする児童がいる。	
郡山中・・・ 不登校の問題と、言葉遣い(敬語)に課題がある。	
南方小・・・ 夜のテレビ視聴時間が長く、就寝時間が遅くなる児童がいる。	
3 意見交換	
花尾小Q・・・ 「生活リズムがんばりカード」, 「マイスケジュール」の取組についてもっと詳しく説明してほしい。	
南方小A・・・ 2月に実施。保護者のチェックも入れて改善していった。今年度も2回実施の予定。保護者も児童も意識に変化が見られた。	
指導助言者Q・・・ 中1ギャップのようなものを聞くが、今の現状・実態を知りたい。	
郡山中A・・・ 技能教科で、集中力が見られないこともあったが、宿泊学習終了後から中学生としての自覚がでてきた。人権意識が希薄なところも見られ、エンカウンターなどを取り入れた指導を続けている。	
郡山小Q・・・ 小学校卒業後、中学校へ入学して慣れてくるまでどのくらいかかるか。	
郡山中A・・・ 3校から集まってくるので、友達づくりや人間関係づくりに、最初は時間がかかる。	
郡山小Q・・・ 不登校の生徒の保護者交流会について聞きたい。	
郡山中A・・・ 昨年度は、学期1回年3回。	
指導助言者Q・・・ 「生活リズムを整えよう」は、家庭の協力がないとできないが各校の現状はどうか。	
3校のまとめ・・・ 協力がもらえない家庭もあるが、呼びかけを続けて、少しずつでも協力体制を整えていくことが大切である。	

平成21年 6月9日 火曜日	3グループ
司会者 (青野浩哉) 南方小	記録者 (梶田朋子) 郡山中
<p>1 視点1「確かな学力の育成」について各学校の取組</p> <p>○ 放課後の時間を利用した学習の取組について</p> <p>郡山小・・・ 集団下校システムをとっており、放課後の時間を利用するのは、難しい。しかし、休み時間等を利用して個別指導をしている。</p> <p>郡山中・・・ 職員室前に置いてある机などを利用して、宅習や单元テスト等でできなかったところの補充を行っている。</p> <p>○ 家庭での取組について</p> <p>(先生に与えられた課題だけでなく、児童生徒が自発的に取り組んでいく手立てについて)</p> <p>郡山中・・・ 宅習課題、週末課題については、教科に応じて授業のある時に提出させたり、1週間の課題としてノート提出させたりしている。</p> <p>2 視点2「生活リズムを整えよう」について各学校の取組</p> <p>○ 郡山中の行っている不登校等で悩んでいる保護者を対象にした保護者交流会について</p> <p>郡山中・・・ 不登校だった子どもが、再び学校に通い出した経験を持つ保護者の方に話をさせていただく会を開いたり、高校の先生を招いて高校での生活を話していただいたり、年間行事計画にあらかじめある会ではなく、不登校の生徒の状況を考慮した上で行っているものである。</p> <p>○ 郡山小の「くん・さん」づけさせる理由について</p> <p>郡山小・・・ 中学生も相手の気持ちを考えずに、相手の傷つく言葉を発することがあると聞かすが、小学校では、教師も子どもたちをきちんと「くん・さん」づけで呼んでいる。ていねいに言葉を遣うためや人に応じてあだ名や呼び捨てなど区別をしないためなど、その効用が考えられる。</p>	



平成21年 6月 9日 火曜日	4グループ
司会者 (川 畑 賢 一 郎) 南方小	記録者 (笠 井 和 子) 南方小
<p>1 視点1「確かな学力の育成」について各学校の取組</p> <p>(郡山小)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手引き作成→学校, 保護者の共通理解が必要→7月のPTAで保護者に協力依頼 ・鉛筆の持ち方→低学年からのしつけが大切 ・専門的な指導法研究, 充実 → (課題) 専科の場合, 担任は授業を行わないためその教科への意識が希薄になる場合がある。また, 過去に一度も指導したことのない教科ができる場合もある。 <p>(花尾小)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手引き作成→PTA総会で保護者へ説明 ・音読, 読書→家庭や子どもによって個人差が大きい。→ 音読カードを使用して子どもたちに意欲をもたせている。 <p>(郡山中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週, 毎日, 週末など家庭学習の課題の出し方はばらばら→ 各教科連携をとり, 生徒の負担を考慮しながら家庭学習の課題を出している。 ・全児童に「学校生活のしおり」を配布, ガイダンスを行った。 ・1年生について入学当初の1, 2か月で家庭学習を提出する習慣を身につけさせるよう指導している。提出することが目的とならないよう, 宅習提出後の小テストで定着度を確認している。 <p>(南方小)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手引き作成→学校, 保護者の共通理解が必要→ 学級PTAや学級通信などで保護者にも協力を依頼する。 <ul style="list-style-type: none"> → マイスケジュールを立てさせ, 放課後の時間を有効に活用させる。 → 配布後の見届けも行う。 ・「家庭学習頑張りカード」の実施結果→ 昨年度10月と2月に実施。2月の方が宿題以外の学習の取り組む子どもが増えた。また, 平日3日間はマイスケジュールどおりに実践できたと答えた子どもが8割程度いた。 	
<p>2 視点2「生活リズムを整えよう」について各学校の取組</p> <p>(郡山小)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年になると寝る時刻が遅くなりがち→保護者の理解と協力が必要 ・友達を「くん, さん」をつけて呼ぶ。→ 「くん, さん」をつけて呼べば, 言葉かけ全体が穏やかになり, トラブルが起きにくくなる。 	

(花尾小)

- ・ アンケート結果からテレビ視聴時間が長いことが分かった。→ P T A等の際、保護者の理解協力を呼びかけた。
- ・ 高学年になると寝る時刻が遅くなりがち→テレビやゲームの時間を決める。
(一家庭一家訓) を定め取組を継続中

(郡山中)

- ・ 週1回の学年部と生徒指導委員会の連携により情報交換を行っている。
- ・ 敬語がつかえない生徒が増えている。→ 言葉遣いや相手を傷つけない言葉遣いの大切さを指導中

(南方小)

- ・ 高学年になると寝る時刻が遅く、テレビ視聴時間が増える傾向にある。
→ 保護者の理解と協力が必要→同居する家族との共通理解が難しいところもある。
- ・ 昨年度6月と2月に「生活リズムに関する実態調査」を行い、実態を把握した。
- ・ 6年生は「朝スッキリ目覚める工夫」を学級テーマに掲げ、「スッキリカード」を実施した。→ 子どもたちが帰りの会の1分間スピーチで取組を報告

3 意見交換

Q郡山中から→ 中1の子どもの実態から、小学校の家庭学習への取組時間はどうなっているか。

A どの学校も取組時間は、個人差が大きい。しかし、定着を図るため具体的な指導を行っている。→ (目標時間家庭学習に取り組めるような課題の出し方の工夫、取組方についての指導)



- 家庭学習の習慣化が図られていれば、中学校で更に質の高い学習を目指すことができる。
- ◎ 宅習シミュレーション→一斉指導で授業内容を家庭でどのように復習すればよいかを考えさせる方法もある。

- ・ 週明け体調不良を訴える児童生徒が多い。→ 部活やスポーツ少年団などで週末ゆっくり休養できていないようだ。その上、テレビ視聴やゲーム時間の多さが影響しているのでは。



- 家庭の協力を得ながら各自が生活リズムを確立していくことが大切。

- ・ 思ったことをストレートに口に出す子どもが増えてきているようだ。



- 時と場合に応じた丁寧な言葉遣いができる子どもを育てていかなければならない。まずは、相手と呼ぶときは「くん、さん」をつけさせる。

- ・ 郡山中の資料「学習の心構え」は、小学校高学年から意識させることができそうだ。

(2) 全体協議の記録

司会者 河野克純(郡山中) 記録者 林 和代(南方小)

グループ討議報告

- [1グループ] ・ 各校, 確かな学力をつけるため, 家庭学習の手引きを作成し, 保護者との連携に取り組んでいる。
 - ・ 学習の基本的しつけにおいて, 保護者との連携を密にするには(低学年) 気がかかることがあったら, 毎日のように連携を取り合う。
 - ・ 生活面では, テレビ視聴について話題になる。保護者・大人の意識を変える必要がある。ビデオにとって計画的にみるなど取り組みが必要。
- [2グループ] ・ テレビ・ゲーム視聴については, 1グループと同じような意見が出た。
 - ・ 中一ギャップについての実態は, 宿泊学習でずいぶん人間関係について変化が表れた。ただ人権意識が薄く感じる言動が気になる。
- [3グループ] ・ 学力をつけるために, 宿題以外の学習に自主的に取り組むことが大切である。
 - ・ 郡山中学校では, 不登校保護者を対象にした交流会を行っている。
- [4グループ] ・ 就寝時間が遅くなっている。(高学年)
 - ・ ストレートな発言がトラブルになることが多い。「くん」「さん」等をつけることにより, 丁寧な言い方になる。
 - ・ 小学校での家庭学習の取組は, 学習の手引きを利用しているが, 個人差が大きい。また, 内容の充実にも努めている。
 - ・ 郡山中学校の「学習の心構え」は, 小学校でも使える。
 - ・ 宅習シュミレーション…実際, 復習の取組方を学校でもやっている。

外国語活動について

- [郡山小] 1・2年生活科 学期に1回
3・4年総合 全20時間(AEA11)
5・6年外国語 全35時間(AEA11)
 - ・ 英語ノートを活用しているが, AEAを有効に使うためにノートに準じながらプランを検討し, 進めている。単語・文法を覚えるのではなく, 単語を覚えたり, 耳で慣れたり, 楽しく活動させることに重点を置いている。
- [花尾小] 1・2年創意 全11時間
3・4年総合 全20時間
5・6年外国語 全35時間
- [南方小] ・ 英語嫌いを作らないために歌やゲームを多く取り入れている。
パソコンやKEIネットの発音DVDを活用している。また, 外国の文化などで興味を引き, 関心意欲を高めている。
- [郡山中] ・ 「英語は楽しい。」という思いを持って中学校へ入学してほしい。とにかく英語スタートをよいものにしたい。
 - ・ 中学校での英語は1からのスタート, アルファベットから学習するので個人差を感じる必要はない。
 - ・ 英語ノートにこだわらずAEAと外国の文化について楽しむのも一つの方法である。

平成21年度共通実践事項の提案⇒決定

- 1 確かな学力の育成
「基礎学力を定着させよう」(読み・書き・計算の取組)
- 2 生活指導(学級経営)の充実
「生活リズムを整えよう」

指導助言 (郡山中学校 神野重徳校長)

1 研究主題

郡山地域の子ども一人一人の「生きる力」を育むために、小・中学校の連携はどのようにあればよいか。

めざす姿・・・生きる力を持った児童・生徒の育成

生きる力を持った人間とは・・・体・徳・知（健康な体、豊かな心、確かな学力）の調和のとれた人間である。

2 研究の視点

(1) 確かな学力の育成（知の育成）

ア 学習指導要領，県の実施する基礎・基本定着度調査等により基礎・基本を押さえる。

イ 毎時間の中で教師がしっかりと基礎・基本を押さえて授業に臨む。

ウ 学習指導案の中に明確に基礎・基本を位置付ける。基礎・基本を評価する場面を設ける。基礎・基本定着のための時間を設ける。

エ 家庭学習の充実

(ア) 家庭学習のしおり・手引きに基づいたオリエンテーションを行い，学習の仕方を教える。

(イ) 家庭学習60・90運動の推進

(ウ) 家庭学習における学校と家庭との連携

(2) 生徒指導（学級経営）の充実（体・徳の育成）

ア 発達段階に応じた基本的生活習慣を押さえる。

イ 家庭と連携し，良い生活リズムを育成する。

(ア) 「早寝・早起き・朝ご飯」運動の推進

(イ) ノーテレビ・ノーゲームデー，ファミリー読書，親子のコミュニケーション

(ウ) 我が家の約束（一家庭一家訓），家庭生活十か条



(3) 平成21年度郡山地域共通実践事項の決定（郡山地域4小・中学校一改革）

ア 確かな学力の育成

「基礎学力を定着させよう」（読み・書き・計算の取組）

イ 生活指導（学級経営）の充実

「生活リズムを整えよう」

Plan-Do-Check-Action（計画—実施—評価—行動）

7 小中連携研修会の成果

- ・ 授業参観を通して，指導法や児童の発達段階についての相互理解が高まった。
- ・ グループ討議では，小学校の低・中・高学年部の先生方に中学校の先生方を加えたグループ編成を行い，発達段階に応じた児童・生徒の現状や課題について話し合うことができた。
- ・ グループ討議では，参加された先生方全員が発言し，活発な意見交換ができた。
- ・ 今年度の共通実践事項については，昨年度末の推進委員会で提案し事前に各学校に意見を聞いていたので，研修会当日は短時間で円滑に決定することができた。

8 小中連携研修会の課題

- ・ グループ討議の際，グループ間が近く，隣りの話し合いの声気になることがあった。
- ・ 全体協議で，意見交換がもう少し活発に行えるとよかった。